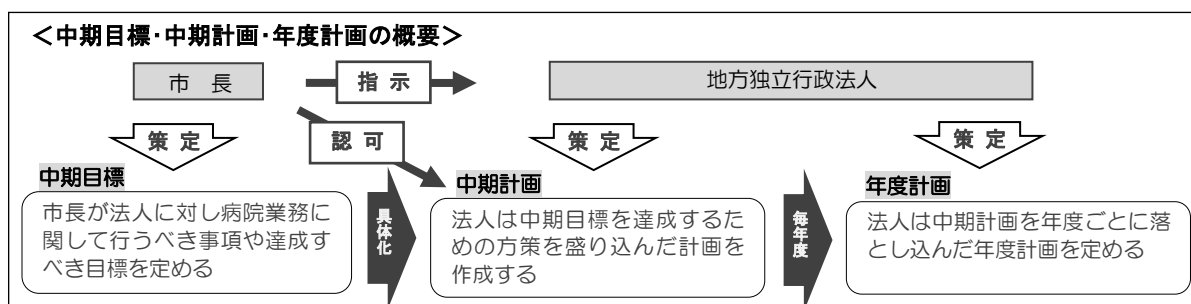


報告第16号関連資料
 地方独立行政法人明石市立市民病院の
 経営状況(2023年度事業計画)の報告について

1 2023年度事業計画(年度計画)の位置づけ

地方独立行政法人明石市立市民病院の年度計画は、市が示した中期目標の達成に向けて市民病院が作成した中期計画に掲げた方策のうち、各年度に実施する事項を定めたものです。今年度は、第4期中期目標・中期計画期間(2023.4.1~2027.3.31)の初年度にあたります。



2 2023年度事業計画(年度計画)の概要

2023年度は、医業収益の確保による安定した経営基盤の確立、将来目指すべき医療体制の構築に向けた病院再整備等の経営上の課題に取り組むとともに、引き続き、市や地域の医療機関などと連携しながら、「地域とともに歩み続ける市民のための病院」として、安全で質の高い医療を市民に提供できるよう取り組みを進めます。

(1) 主な取り組み

- ① ポストコロナを見据えた診療体制の整備
- ② ‘断らない救急’を目指した救急診療体制の強化
- ③ 地域の医療・介護・福祉関係機関、行政等との連携強化および、地域の実情に応じた医療提供体制の整備などを通じた地域包括ケアシステムの推進
- ④ 医療的ケア児に対する後方支援や病児保育室の運営など、政策医療への貢献
- ⑤ 費用の適正化や労働生産性の向上などによる安定した経営基盤の確保
- ⑥ 将来目指すべき医療体制の構築に向けた建て替えを含めた基本方針等の検討

(2) 収支計画

(単位：百万円)

項目	2019年度 実績額※	2021年度 実績額	2022年度 実績額(見込)	2023年度 収支計画
営業収益	8,576	9,691	10,373	8,989
医業収益	7,600	7,538	8,200	8,070
営業費用	8,218	8,610	8,559	8,677
医業費用	7,976	8,359	8,231	8,326
うち給与費	4,531	4,854	4,702	4,773
うち材料費	1,822	1,677	1,679	1,744
一般管理費	242	250	328	352
純利益	132	828	1,542	11

※ 参考値として新型コロナウイルス感染症拡大前(2019年度)の数値を掲載

(3) 主な数値目標

項目		2019年度 実績値※	2021年度 実績値	2022年度 実績値(見込)	2023年度 目標値	第4期 中期計画目標値
職員	常勤医師数	58人	64人	63人	65人	75人
救急	救急車による搬入患者数	3,164人	2,704人	3,284人	3,400人	3,800人
	救急車お断り率	19.8%	25.5%	31.9%	22.0%	20.0%
地域連携	紹介率	78.7%	75.7%	83.1%	80.0%	80.0%
	逆紹介率	83.6%	69.9%	82.4%	85.0%	85.0%
入院	一日平均入院患者数	259.2人	240.7人	238.8人	270.2人	279.0人
	新入院患者数	7,377人	6,176人	6,075人	7,400人	7,800人
	入院診療単価(一般病棟)	62,075円	72,313円	82,212円	66,000円	65,000円
	入院診療単価 (回復期リハビリテーション病棟)	30,364円	33,389円	33,786円	33,000円	33,000円
	急性期機能病棟稼働率	77.9%	72.3%	69.9%	81.3%	84.0%
	地域包括ケア病棟稼働率	80.6%	74.8%	77.2%	83.0%	86.0%
	回復期リハビリテーション病棟稼働率	83.7%	82.5%	91.6%	93.3%	95.0%
外来	一日平均外来患者数	551.5人	500.7人	483.9人	522.0人	540.0人
	外来診療単価	17,007円	16,659円	16,411円	17,000円	17,000円
財務諸表	材料費対医業収益比率	24.0%	22.2%	20.5%	21.6%	21.5%
	経費対医業収益比率	15.8%	17.3%	16.1%	15.6%	15.6%
	人件費対医業収益比率	62.3%	67.1%	60.7%	63.0%	63.3%
	経常収支比率	101.7%	109.2%	117.3%	100.1%	100.0%
	医業収支比率	95.3%	90.0%	99.6%	96.9%	96.5%
	修正医業収支比率	92.5%	87.6%	95.8%	93.0%	93.5%
	資金期末残高	1,736百万円	3,446百万円	5,005百万円	5,073百万円	4,882百万円

※ 参考値として新型コロナウイルス感染症拡大前(2019年度)の数値を掲載

<用語解説>

紹介率・逆紹介率

紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関からの紹介状をもって受診された患者の割合を示す指標。また、逆紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関に紹介した患者の割合を示す指標。

初期診療や慢性の継続診療などは「かかりつけ医」を受診し、専門的な検査や診察、入院が必要な治療と判断された場合に紹介状持参で病院を受診する、そして、治療を終え症状が落ち着いたら「かかりつけ医」へ紹介し、治療を継続または経過を観察する、これを地域全体として行うことで、地域の医療連携が強化される。

回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の身体的障害を持つ患者や機能低下が見受けられる患者に対して、ADL（Activities of Daily Living：日常生活を送るために最低限必要な日常的な動作）の向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行うための病棟。

<急性期> 病気を発症し症状が比較的激しい時期。状態の早期安定化に向けた医療を提供する。

<回復期> 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリを提供する。

地域包括ケア病棟

急性期の治療が終了し病状が安定したものの、すぐに自宅や施設での療養に移行するには不安のある患者さんに対してしばらくの間、入院療養を継続し、在宅復帰に向けての準備を行う（ポストアキュート）ほか、在宅や介護施設にいる患者の急性増悪時に入院医療の提供を行う（サブアキュート）ことを目的とした病棟。

在宅復帰支援の計画に基づき、主治医をはじめ看護師、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカー（MSW）等が協力し、在宅復帰に向けてのサポートを行う。

（財務指標関連）

材料費対医業収益比率 医業収益のなかで材料費が占める割合を示す指標。

経費対医業収益比率 医業収益のなかで委託費や光熱水費などの経費が占める割合を示す指標。

人件費対医業収益比率 医業収益のなかで人件費（職員給与費）が占める割合を示す指標。

経常収支比率 医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を表し、通常の病院活動による収益状況を示す指標。

医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
(病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標)

修正医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{営業費用} \times 100$

資金期末残高 現金及び預金の期末時点における残高。